

<同志社人が誇りに思える情報>

同志社ファン・レポート

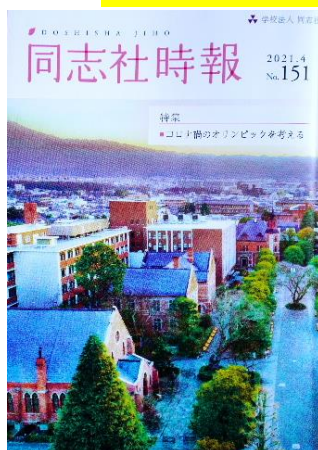
Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report

発信：同志社ファンを増やす会

第309号・2021年6月15日発信

新島襄のもう一つの側面・化石収集の趣味

『同志社時報』No.151(2021.4) pp.35,36の「同志社の逸品」に新島襄の署名が入った石片の写真が掲載されていた。それは「新島襄が採取した葉化石」とのこと。



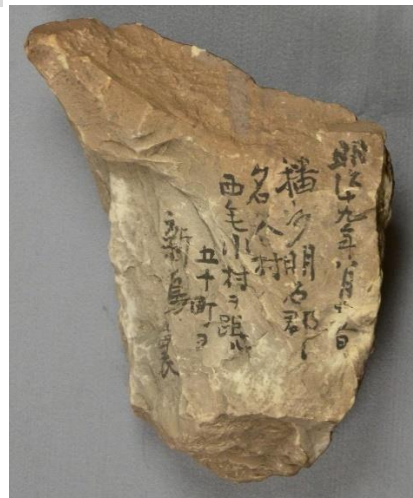
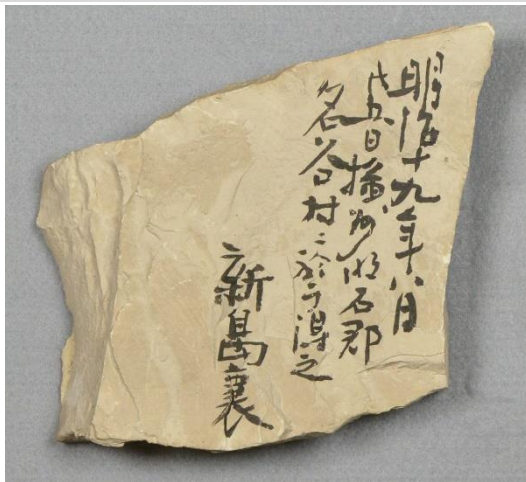
記事によれば、その鑑定を2017年（平成29）に同志社大学地学研究会及び同会OB会と共に学内外の研究者の協力を得て調査している。結論は「2点の葉化石は、新島の学問的志向や嗜好を示すだけにとどまらない、固有の学術的価値を有する資料である。」と書かれていたので、その詳細を知りたく、報告が掲載されている『同志社大学地学研究会創立50周年記念 新島襄が感じた地球』（以冊子と略す）を取り寄せた。



以下、新島旧邸蔵地質標本の鑑定報告書の抜粋、概要である。

- ・ 調査主体：同志社大学地学研究会
- ・ 調査対象：新島旧邸に所蔵されている新島襄が遺した岩石鉱物や化石の標本
- ・ 鑑定方法：肉眼鑑定
- ・ 調査目的：新島の地質学や鉱物学に対する関心の持ち方を解き明かすため
また明治初期の日本の地質学や博物学の歴史資料にする。
同志社大学地学研究会では創立 50 周年を記念出版
- ・ 鑑定場所：同志社社史資料センター事務室
- ・ 調査指導：本学理工学部の増田富士雄教授、本学嘱託講師三上禎次博士
- ・ 指導助言：同志社大学地学研究会OB会の高田徹氏、岩田修一氏、安藤孝夫氏
- ・ 特別指導：
 - ・ 神戸層群の植物化石の鑑定について
滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員の山川千代美博士および
元千葉大学大学院理学研究科の松本みどり博士。
 - ・ 中新世の貝化石について
上越教育大学の天野和孝教授に写真画像に基づく鑑定
 - ・ 三葉虫や腕足類の化石に関して
大阪市立大学大学院理学研究科の江崎洋一教授
- ・ 鑑定結果：各試料の名称(化石名、岩石名、鉱物名)等を表に、それぞれの写真を添えた。
- ・ 鑑定所見：旧邸の標本には多種多様な岩石や鉱物が含まれ、その時代は古生代から現世に及ぶと考えられる。また日本産の試料が多くを占めるが、海外産の可能性もある標本も含まれる。
- ・ 地学的意義：本報告では、鑑定を行った標本を4つに類型化してそれぞれの意義を述べる
 - 1.神戸層群の植物化石、
 - 2.新世の貝化石、
 - 3.全属鉱物と石炭、
 - 4.中方生層の岩片について (内容は略)

・ 新島襄の直筆で墨字が書き込まれている化石について



写真：同志社大学同志社社史資料センター所蔵 掲載許可済み

2点は葉化石である。

- ・ 1の葉化石：(法量 115×120×20mm)には「明治19年8月□□(25)日播州明石郡名谷村ニ於テ得之 新島襄」、
- ・ 2の葉化石：(法量 165×225×92mm)には「明治19年8月□□(25)日播州明石郡名谷村西垂水村ヲ距ル五十町ヨ 新島襄」とある。

いずれも1886年(明治19)8月25日、明石郡名谷村(現・神戸市垂水区名谷町あたり)で新島が採取した。

- ・ 傍証

『新島襄全集』8、388～389頁、及び『新島襄全集』5、287頁に記述から、新島が明石滞在中に新島自身、あるいは誰かに依頼して採取した化石であることが傍証され、2点の葉化石は、新島が採取したものと見て間違いないと考えられる。

さらに、これらの化石は、他の新島旧蔵化石及び鉱物類には見られない、特有の価値を持つ可能性がある。2点の葉化石は、新島の学問的志向や嗜好を示すだけにとどまらない、固有の学術的価値を有する資料である。

* * *

「海外産の可能性のある標本も含まれる」とのことで、海外での鉱石などの採取を『新島襄全集』8巻から探してみたらつぎの2つの記事が見つかった。

1871年6月21日(明治4年)29歳 アンドーヴァーからA.ハーディに手紙を送り、休暇中はナイアガラの滝、トレントンの滝、ユチカなどの地域を廻って化石や鉱物を採集したいことを記す。

1874年10月26日(明治7年)32歳 早朝起床、近くの五～六百フィートの山に登る。頂上付近で化石を採集中、列車が来るのを見付けて大急ぎで下山し、駅に駆けつける。

.....

植木学長は2021年度春学期入学式式辞でつぎのように話されている。

同志社大学は14学部16研究科を擁する総合大学です。皆さんはそれぞれが所属する学部で専門的な学びを深めていかれると思いますが、ぜひ、他学部の学生さんや先生方とも積極的に交流し、他分野の書物をも読み、物事を複合的総合的に見つめる目を養ってください。取り組もうとする課題を多角的な視野で真摯に考え抜くことによって、多様なものの見方考え方にふれ、それぞれの世界を広げていかれることを願っています。そのような多様性に満ちた場所が同志社大学であり、私は、本学のキャンパスに、創立者・新島襄の「人一人ハ大切ナリ」という、個々人を尊重し、多様性を大切にすることが深く浸透していることを誇りに思っています。

.....

新島襄は教育者と宣教師との大きな使命を持ちながら、片や鉱石や化石の収集にも関心を持っておられた。それも「学問的志向や嗜好を示すだけにとどまらない」レベルです。

新島の人を引きつけ、短時間に懐に入っているのは、このことにも一因があるのではないかと考えますが、いかがでしょうか？